大正九年七月廿五日發行

長野縣諏訪郡鎌嶋町三八九番地
發行所 澤書店

長野縣松本市小柳町八十五番地
印刷所 淺川活版所

目次

△研究事項
○造林上の質問に就て　西澤生
○福井縣に於る杉挿木　菊地一
○森林と昆虫
△隨筆
○拾有ヶ年回顧　珍竹庵
○故内澤先生を悼む　峡龍生
○自覺　山村愛
△文苑
○荒原の夏　三年生
○奮起　日記帳よりぬき
○日記帳より　島の里人
△通信報告
○七宮先生の芳筆
○會員動靜
○會員死亡
○十七回卒業生就職
○林友代領收報告
○寄宿舍より

大正九年七月廿五日　第百二十九號　毎月廿五日發行　（明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可）

研究事項

造林上の質問に就て

西澤生

此頃知人より左記の質問に接したので、之れは造林學上至極適切なる問題と思料す依つて之れが應答をなせし序に、本紙に記して識者の教を乞はんとす

一、漆樹の適地並に種子の發芽促進法につきて

本樹は溫帶を鄕土適地とす、而かして東南面の黑土の適潤地中に少量の砂を混じ、水氣の流通よき所を可とし、漆液の質も佳良且つ多量なり、反して北向きの陰地に生育するもの樹幹の長大速かなるも、其の液不良なるのみならず少量なりと云ふ、又粘土質及乾燥に過ぐる所は其の生育不良にして從て利益尠し

種子の發芽促進法は種々あれども左の方法は簡單にして比較的安全に目的達し得るものなり

(1)本法は最も良好なりと稱せらるゝものにして其の法は秋末に採收したる種房を臼に入れて輕く搗き皮を去り、唐箕を以て皮と種子とを揺出す、其種子を木灰汁に混じ能く揉み笊に入れて數回水を注ぎ蠟分を去りたる種子を俵叺若くは菰包となし、尿液に浸し置き翌春播種期節に至り之を取り上げ笊に入れ洗ひたる者を直に播種するにあり

(2)秋季蠟分を洗除し精選したる種子を俵又は叺入するか、若くは菰包として之れを四五尺の深さに地中に埋め置き、翌春彼岸過き搬出し見るときは甲裂發芽の兆を呈するか故に直ちに苗圃に播種すべし、若し甲裂發芽の兆なきときは尙ほ地中に埋め置き其の兆候を俟つて播種すべし

(3)蠟分を洗除したる種子を蓆の如きものに包み蒔種の時期より凡そ五十日前位に厩肥の中に埋め置くときは皮殼膨脹し發芽せんとする兆を呈すべし、此機を逸せず直ちに播種すべし

(4)蠟分を去りたる種子を蒔種前二十日位水に浸し時々攪拌し且つ水を取換ふべし然るときは漸次膨脹し其の皮殼柔になりたるとき直ちに蒔種すべし、若し水中に浸すこと長きに過ぐるときは皮殼澎破し發芽力を失ふものなり

二、播種に依る桐苗養成法つきて

(1)樹實の九十月頃に熟し將に實皮の裂開せんとするものを採集し、之を蓆上にて乾燥するときは種子を出すを以て之れ布袋或は紙袋に入れて貯藏すべし

(2)翌春卽ち降霜濕氣の被害なきに至り沃地を選び三尺幅の床面を作り土を細かに碎き丁寧に均らし其の上に十分腐敗せる堆肥の如きを散布し能く押へ付け其の上に蒔種す種子は甚だ輕小にして飛散し易き故無風の日を選びて蒔種すべし蒔種量は坪二三合位にして散蒔とす而して別に被土をなさ

ず只○種したる上を鍬の背或は板片にて輕く壓付け其の上に藁を薄く敷き細竹を以て之を押へ置くなり然るときは四五週間にして發芽するもなり

(3)秋季降霜の前に堀採り暖き手に假植し置き翌春四月頃床替す、其の法は長き根は切り詰めて五六寸となし三尺の床に五六寸置きに植ゆ、時としては幹も二三寸位の所より切斷す然るときは床替後多數の苗芽を生ずるに依り强盛なる一枝を殘し他を除去するなり

(4)種子も室内發芽試驗に依るときは成績良好なるも、苗圃に播種するときは一劃内外に過ぎず、且つ極めて枯死し易きものなれば繼合發芽するとも乾枯或は腐朽等に因りて完全に生育し得るものにあらず、故に本苗養成は分根法を普通とし播種に依ること少し

(5)除草は時々行ひ施肥は夏土用前に於て人糞を水五倍位に溶解し水肥一荷に菜種粕の粉米を四合混和して施すを可とす又此桐苗木は旱魃と雖も水を注ぐときは枯死することあるを以て斯る場合は雜草其他雜物を根際に敷き日光の直射を防ぎ常に濕潤を保たしむるにあり

(6)鐵碗蛾と稱するものあり、其の幼虫は幹材内に浸蝕穿孔するを以て、此虫の寄生するときは穿孔を鬚附油又は粘土を以て固く塞ぎ害虫を窒息せしむべし、又下部に喰ひ込みたるときは石油乳劑或は除虫菊劑を以て殺し又は鐵線を以て突殺すべし、或は細き紙縷に火藥を包み道火の如きものを造りて之に着火して殺すも可なり。(完)

福井縣に於ける杉挿木

越畔

福井縣今立郡上池田村地方は古來より杉の養成は殆ど挿木により唯一時大正四年彼の赤桔病の蔓延期に挫折したるも其の後漸次挽回し再び昔時の盛運を見るに至れり即ち同地に至れる者は必ず四顧に水色の眞直なる美はしき幹林を見るべし、今同地に於ける挿苗養成法を記せば左の如し

一、母樹の選定　挿穂の母樹としては普通五六年生乃至十年生の健全にして伸長最も旺盛なる幼木を良しとす

然して母樹は勿論挿木によつて成長したるものなり

二、穂枝の選定　穂は母樹全高の半以下にして然かも下方の枝端最も良好なり

然して一母樹より四五本以上採取すべからず又母樹の生育を害すればなり

三、穂木採取　穂は本年の成長部と前年の成長部との境の部分より大凡一尺乃至一尺四、五寸の長さに鎌にて斜に切り落す從來は前年の成長部を二三寸付けて切りたるも右の方成績よしと云ふ

四、穂木採取の功程　附近の杉林より穂木を採取するには一人一日普通六百本を一度としこれ以上なれば粗漏に流れ易し

五、穂作り伐採したる枝條は全長一尺とし其土部大分廻りは枝葉を殘し其他は手にて搔き取り直ちに田圃に挿すものとす但己むを得ざる場合には淺き流水に浸し置くも二日以上亘るべからず

又挿穂切採の際は穂は通常一方に彎曲せるものなるが通常其外面を斜に切口を附し剝皮すべからず

六、挿床の選定　此地方は殆ど田地の畦を使用し來り即ち田植の附塗り下げたる畦の柔き所に一本又は二本並べに或は三角形に稍々斜めとし變曲せる方を外面に向け一間付五六十本の割合にて差付く即ち普通の畦に豆を蒔く樣に杉を挿すものなり但從來は自家用として僅少の苗木を養成したるに過ぎざるも漸次苗木の不足の結果販賣の目的を以て多大の養成をなし隨つて田畑をも使用するに至れり面して田は畑に比して濕氣に實み挿木養成には最も適せり

七挿穂の季節　八十八夜前後即ち四月下旬より五月上旬迄に多く行はる

八差穂及排水溝　差穂の床は普通三尺の畦畔を作り之に五本宛差すものとす而して土地柔軟なれば差捧等は使用せず先づ一尺の穂を約六寸迄差し込み其頭を斜に北方にむけ葉裏を下に向はしむ但し此塲合切返しはなさず床地は田畑使用の塲合には全く日覆の必要なし即ち床巾三尺毎に巾一尺宛の溝を設け爲めに旱天には灌漑をなし雨天には排水て

便せり

九穂挿の功程　普通二千乃至二千五百本なるも縣設苗圃にては此記錄を破りて實例最大踏付共三千七百九十九本に達せり

十手入保護　毎月一回の除草の外何等の手入を要せず且施肥なぞすこともなし唯旱天又は霖雨に際して灌漑排水をなすのみ但田の畦のものは全く放置せり

十一着生歩合　挿穂の着否は年によりて差異あり即ち雨量適當なるときは成績良好なるも夏季旱天打續くときは不良なり一般に此地方にては九割の活着を見る好成績を擧げつゝあり

森林と昆虫（其一、落葉松）

菊地一

研究材料は本校の苗圃演習林等より採る事とし中村先生、西澤先生は特に御援助あり演習林の落葉松は見事に發育し生長するのに小使室の側にある落葉松は太りもせず延びも惡く其中の數本は憐れにも枯死す是は空氣の流通の如何、濕氣の多少にも關係あらんも害虫の被害は其主たる原因たらずんはあらず。樹齡十三四、樹數五十本。四月上旬若葉の萠え出でたるばかりの折、蛾虫早や活動を始め嫩葉の四五分に延びける時には幾千の蛾虫蕃殖して勢を逞しうし蟻族技幹を急がしく上下し篤と調べたるにテントウ虫の幾匹とか、ヒラタアブの幼虫、數匹とが葉間を徊ひ廻れり。然るに樹幹及び廊下等に產卵せるブランコ毛虫、本年も孵化し落葉松に集まり來り葉を食ひて五月末頃には五六分に餘まり六月中旬には一寸位に生長し下旬には一寸五分を越ゆ。此に注意すべきは五月より六月に渡りて蠅族の群集り來れる事なり。ブランコ毛虫の驅除としては生徒諸君實習を兼ねて數回之を行ひ毎回バケツに滿つる程採集せり。されど彼等の爲めに落葉松は大方食ひ荒されたるは悲むべし。驅除法としては單にピンセット類にてつまみ採り之を熱湯にて殺せるのみ若し適當なる良法もあらば御教示を乞ふ。

新島博士に依ればブランコ毛虫は先年北海道にては濶葉樹を主として食害したる由なれど此所にては落葉松を主とし杉アラ・ギ藤、楓、アヤメ及びウヤゴヤシの花までも食ふ。西澤先生はヒノキの葉を犯したるを認め中村先生の談によれば兵庫縣下にて五六丁歩の杉の民有林に多數發生せるブランコ毛虫（まといまい蛾の幼虫）に就ては新島博士の記載に近し乃ち幼虫は「體長二寸餘に達し頭部橙黃色をなし顏面に黑褐色の線あり體は橙黃及び濃褐の斑紋を交ゆ、各節三四對の瘤起ありて長毛を生ず、背線に接する一對は毛を生ずること少なし、其第五節に至るまでのものは藍黑色をなし第六節以下のものは紅褐色を呈す、第一及び尾節には殊に長き毛を存す云々」六月二十三日には其最大なるブランコ毛虫長さ二寸餘となる。蛹化の仕度を始め口邊より絹糸を出しつゝあり。而して折々は數匹の寄生蜂訪れ來りて產卵するらしき模樣なり　六月二十六五日頃には大方蛹となり七月十四日に蛾現はれ七月十六日母蛾產卵を始めたり。猶數個の蛹を破りしに體中に蠅の蛆らしきものを見付け試に瓶中に土を入れて飼養せしに七月十日頃には俵狀の蛹となる、目下その飛び出すを樂みつゝあり或は思ふ蠶と蛆蠅の如き關係にあるものにや。

話が前後するが數千匹のブランコ毛虫中寄生蜂の幼虫の出でたるものは只一匹しか見つからず併し寄生蜂に犯されたるらしき毛虫は六月二十二日の調べには五分ばかりとなれるもの多く殆んど運動せず後には斃れてゐるのあたりには白色の極めて小なる繭十數個あるを常とす。七月十五日瓶中に入れ置きしに十六日に小蜂多數發生せり體長一分觸角はより長し。小繭蜂科なり此頃になりては前住者たる蛾虫も大方減じヒラタアブもテントウ虫も姿を認めず。次にブランコ毛虫を訪れたる蜂には數種ありその一種は大さ二分餘にて第一脚の一部車夫の脛の樣に膨みて全体は黑色。翅をも檢せしに小蜂科の特徴とよく一致す何しろ文書尠なく觀察不充分にて學名の如きも詳にし得ざるは情なし從つて詳細は後日の研究に待たずるべからず

ブランコ毛虫は我國到る所に產する由なり

成虫は雄は灰褐色にして雌は丐白色共に翅の開張二寸内外。觸角は羽狀にして雌の方太し。又蛹は體面に帶紅色の毛群を具へ僅少の絹糸の間に存在す體長一寸位なり。（未完）

新鳥博士の日本森林保護學、森林昆虫學を參照せり

隨筆

◎十有五年回想錄

大正九年七月十一日
北海道の山林生活中
珍竹庵主人誌す

回想す十有五年前の今日、何と尊き何と幸ありたる記念日よ難有涙を袖に濕し又輝きの胸の憲前途の門出祝福の日なり！事よ現在計らずも北海道は今市川の水源に明治鑛山の所在地明治橋の畔りに我出張員と本陣を構へ茲に此忘れ難き記念日に遭遇し胸中張裂け名許りの思に耽る遇然とや言はん天何ぞ我に幸せる、世は今大正の御代なれど明治の名こそ涙の種子悲しき明治の二字は我の生れたる御代なり我の社會に生れ出たる御代なり我の結婚したる御代なり人生の三大記念日は即ち明治年代を冠す明治は我の生命なり永久に我日本の歴史に輝くが如くに又我家の歴史に輝く可きものなり國の歴史に光明あるが如く又家の歴史に光明を傳ふ國史の一分子は國民一家の歴史にあり我筆拙く又我思淺く到底回想錄と題するも何等史的價値なし又之を欲せず獨り自ら回想して自らが慰安とするに過ぎず假令他人を益し世を利するに至らずと雖も忙中有閑不忘中有重聊か過去十有五年の回想記を錄せんとす

抑も明治三十八年七月十一日は我東京帝國大學の卒業式當日なり此日長多くも明治大帝 陛下 には軍國多事の秋にも係はらず式場に行幸ましまして我々に幸あらしめ給ふ我々の光榮何者か之に如かん然も當日咫尺を出でざる處に大元帥陛下の禮裝輝き渡る 天顔を拜し奉り恐懼惜く處を知らず夢心地したるも今猶ほ眼前に髣髴たるは實に〳〵貴き事の限りなり

斯くて君國の爲め我修めし道に一生の誠を捧げ忠實業に服す念は身心に極印を打たる感あり常に我乏しきを以て其盟の足らざるを嘆するものなり、神去りませる今日とはなるを遙かに〳〵 御靈を拜し當日の光榮に報いん覺悟こそ強かれ

明治大帝の御不例に際しては長野に在職中善光寺に日參の甲斐もなく七月三十日御崩御相成四海同胞と共に涙に暮れ未だ涙の乾きやらぬ其年の八月七日木曾山林學校長に任ぜられ長野を後に木曾山中懷しき仝校に轉じたるが幸に九月十三日仝校を代表して御大葬に列し、代々木が原に御棺を拜送し奉りたるは涙の種子ならざるなし繼で翌年憲照皇后陛下の御大葬にも列し木曾在職中の大部分を國喪中に過せる緣にしとして余は山林學校代々の校長肖像中我のみは喪章を附したるは當時を退想するの意に出でたるものなり星移り霜換らるも當時を回想せば轉た悲情切なるものあり言ふを止めよ是れ國民の至想赤子の至誠なり人皆然らん我も亦同じ矣嗚呼深き印象の殘りよ

明治卅八年は林學士名簿を調ぶれば即ち十五回目大正九年迄を積算すれば三十回目の眞中かくて我輩仲間の中老と言はるゝのも同理なり今は大正組とか明治組とか別けらるゝ世の中新進氣鋭の連中既に林學博士の稱號を受けた者もあり誠に結構永い間林學博士が一ダースに充ちなかつた時代を想ふと我林學界も進境に入り今は二ダース然かも此内我同期生二名が去年より今年に跨り光榮を負ふに至つた歡喜惜く能はず我クラスの名譽と稱すべきなり不思議にも昔から同じクラスより二人三人と博士が輩出する慣例だ卒業當時の首席か次席が稀に例外もあり學生時代の努力と卒業後の努力とが異つて來て居る場合もあるから意を强くす我クラス即ち明治卅八年組は十五名どうも十五と云ふ數字に緣が深い感あり御互に學友と云ふもの程懷しい事は無い、殊に同期生の友情が厚い、シセロ曰く「人生より友誼を除くは世界より太陽を除くに均し何んとなれば吾人が天帝より受けたる事物中に就て友誼より善良愉快なるものなければなり」と然し學窓を飛出すと夫々各自の運命に囚はれ各自の職務先が四離散在するから自然會合する機會が尠い然し御互に邊境に居て同窓生に遇ふ時の樂みは又別段に感ずる孔子も論語に「朋あり遠方より來る亦樂からずや」と言はれて居るが古今を通じて同感かの農商務省主催の府縣林務主任會議の節は一番我同期生が東都で會ふ機會が多かつた、余も長野縣在職中は主任會議に列席すること四回其度毎に三河屋で同級會を開いて牛肉鍋をつゝき、今昔の談に耽つた此談合程罪のないものはない樣に感じて居るが今は北境の地遠く離れて其一年一度の樂みの機會も失ふに至つたが幸に北都には同期生が自分とも三人居る東都に次いで多い

我クラスメートは兎角邊境や異國に發展されて居るものが多い先年は支那に二名も雇聘せらて居たが今は本國に歸り他は朝鮮樺太臺灣に主要の地位を占め重鎮を成して居らるゝ其他は内地が多い流石に帝都の中央には四名居らるゝが一名は目下實業界に入り一名は村長樣で鄕里に勤續されて居る日本全國中林學士の村長樣は唯御一人と思ふ村有林でも澤山あつて理想の村有林でも經營やられたら面白からうと思ふ、然し此等兩名も卒等後數年間は大林區署の飯を食べられた者であつた其他は大學に二名御料局に一名農商務省系統に三名内務省系統に六名である今一人が實業界に雄飛して臺灣に在勤とあるが此等十五名の内で卒業以來自分が一度も會合しなかつた即ち十五年間に一度も合ふ機會のないのが僅か二名丈である

斯くて我クラスは學者と官吏と實業家に公吏と云ふ四大階級否四種の生活方法に過ぎない中老組の我クラスが現在の林業界に重きをなして居る事は愉快である又當然であらう。此間に處して自分は卒業前文部省の給費生（大枚月五圓）といふ緣故から卒業後直に京都府立農林學校の教諭に任せられたクが月給取りの始め滿十五年の八月を迎へる爾來奈良に轉じて義務年限の四年も濟み漸く明治四十四年の春に教員生活から官吏生活に入るべく長野に轉じた翌夏木曾の學校に再び教員生活を過すこゝなり大正三年秋再び長野の古巢へ歸らされ大正七年の御用納めの日に札幌に轉任命令受けたれに依りて觀れば我十有五年は所謂教員生活が八ケ年官吏生活が九ケ年然かも木曾時代は官吏の肩書兼務であつたから其間即二ケ年二ケ月は重復した勘定である滿十五年勤續した者は教員も官吏も恩給年限に達するのであるが自分は前述の如く中途乘換をしたので未だ恩給年限に達するには前途遼遠也と謂つ可きであるうれ丈け若氣か失せない努力奮闘するのも之から先きである樣に思ふ

何んでもスタートが大事だとは競爭の秘訣であるが我過去を追想するとスタートが惡かつた樣に思ふ否他人の痛氣を病ひでは無いが田舍廻りの教員生活を始めての振出しにした然かも之は給費生の義務年限に束縛を受けた若し大學にでも殘つてコツ〳〵一生懸命に學界の人で埋つて居たなら博士論文位起草した事であつたらうが卑近な學界を占領して居た許りに一層劣つた頭が低くなつた事は懺悔の一である

然し自ら招いた罪は最早後悔先に立たずである然し地方の中等程度は我輩の仲間が極めて稀であつた當時日本の林學界の股肱となり手足となり眞に實勢を掌る下稚林業界の雄者を數多養成した事即ち我邦家が當時最も要求して居た方面の育英事業三樂の一を我社會生活の始めに暮らした事殊に京都奈良、木曾とそれ〳〵特徵あり特殊林業の發達地に於て地方的色彩を以て教育界に隱れた事は自己の内的生活上多大の趣味を感じたのである

其甲斐ありて長野縣及び北海道の官吏生活を暮らすに當り昔の教君子と共に實務を掌り苦樂を共にし得る事は昔て教育社會に同じ經驗を積んだ者のみ味ふ可き点である殊に現在の如く天幕生活を共にし命懸の境遇に際會して互に助合又は救合ふ樣な時代には一層其感を深うするのである

然し教員生活を永く勤めた反面は何となく教育嗅くなつて余り眞面目過たり融通のつかぬ樣な風が官吏生活に入つた當時は世間

が馬鹿嗅く感ずる樣であつた此馬鹿嗅い世俗的眞暗い所謂俗吏根性が取除かれない間は官吏としては成功しないのではないかと思ふ然し性は天の命ずる處賦與する處長い間教養せられた父母の恩師の恩に對して各人のタイプは容易に變更が出來無いこと、思ふ只平凡人道に徳らざる官吏生活の餘生を送る覺悟である

論語に「父母在せば遠く游ばず游ぶに必ず方あり」と爾今老父母を中京の地に殘すも許諾の上で境遇にあり公務公職上危險多き施業案の仕事に從事するも孔子の所謂「身体髮膚之を父母に受く敢て毀傷せざるは孝の始なり身を立て道を行ひ名を後世に揚げて以て父母を顯はすに孝の終なり」の教へを推奉し神佛に自己の健康を祈り克己奮勵自己の力に向はしめんとす即ち「樂みて憂を忘れ老の將に至らんとするを知らず」の境涯に入りたい我歳今や不惑に入る父母弟妹四人妻子七人我奉族多勢なるは益々中老を一中考たらしめざる所以か、子供の數に於てはクラスメート中優位を占ひ從て貧乏子寶を以て甘んずるに若かず十有五年の間妻子七人は明治大正を通じての產フランリンの言葉の如く「狹くとも幽靜に小さくとも陽氣に我家を建て」我家の城廓に有象無象の小兵を備ふるがせめても未來の幸福なりと信じ「良妻と健康とは人間最上の財寶なり」との英語を尊重するも兎角良妻たらしめ難く健康の保障困難なるは我々の弱点か

自ら反省して未だ修養の足らざるを嘆ず世間の仲間には道樂多くやれ謠で御座れ碁將某で御座れ玉突で御座れ千種万態我れに之等の道樂否趣味なしテニスやレースは教員生活時代の所有權其他に何物を求めん

十有五年の間我が副業は著作にあり雜誌投稿にあり師の恩に報い我が修むる學の爲め社會の福利を增進し聊か斯道の上に卑見を陳べ或は南顚の人となり或は衆議の席に列するの機會が勸からざりしを回想し筆戰舌戰に然かも信州の如き言論界の雄を以て誇り教育思想の進化せる教育國兼林業國に於て修養し或は千山万岳に踏査の快味を叫び上局と共に尋山の趣味を分ち得たるを喜ぶ當時の印象を追想して止まない

今茲に過去十有五年の間著作の纒りたる公刊物を掲げて副產物の記念品を陳列せば左の如し

○日本竹林經濟論 (京都時代ノ著)
○林業四十六訣 (仝上)
○竹林栽培新論 (奈良時代ノ著)
○竹林保護繁殖法 (仝上)
○造林の經營 (仝上)
○農林家訓集 (仝上)
○林學講義 (仝上)
○林學教科書 (仝上)
○林學教科書(保護利用篇) (仝上)
○實用林業便覽 (仝上)
○愛林思想 (木曾時代ノ著)
○竹林經營の要 (長野時代ノ著)

右の內「實用林業便覽」は名古屋開府三百年祭の記念物「愛林思想」は木曾山林學校新築落成式の記念物「竹林經營の要訣」は御大典祝日記念物なりとす

我れ林學に學を修めしと雖も自ら一本一竹の植栽すべき親讓りの土地尺寸もなく又自ら求するの域に達せず餘儀無く土地所有者否林業熱心の有士諸君に贊助を得て栽竹植樹の法を說き林業の利用厚生を述べ林業思想宣傳の一助を企畫したるに過ぎず敢て識者の嘲笑を顧みず是れ皆師恩の賜也

釋尊は六方禮記に弟子の師に事ふる當に五事なるべきを說く曰く「一には當に之を敬ひ難るべし、二には當に其恩を念ふべし三には教ふる所は之に隨ふ四、には思念ふて厭はず五、には當に後より之れを稱譽すべしとあり

蓋し我拙劣なる著作の眞意師恩に報ゆるにあり

人生宜敷記念日を回想すべし記念品を尊重すべし今や我曆の上に陸軍記念日あり海軍記念日あり厄港の慘虐悲道に對しては「五月廿四日を忘れな」と記載されたり戰利記念品は我が九段坂上の建物に納まる外振天府を始めとし神社奉納の外地方の小學校にも散在し我軍國思想涵養の資料たり然るに未だ林業記念日あるを聞かず獨り樹栽口の語あるを聞く然して全國圖書館は到る處に分布す然かも林業書の貯へられたる否排列

せられたる圖書館の數果して幾何かある若し此間に處して我記念品の如きは寥々たる星の如きか

抑も山林は國土を裝飾する至寶なり美林は一國を代表する美人に優る數等なり然かも林業に關する書冊の山林に比すべきもの極めて僅に大家の著作既に然りとせば我が記念品の如き足元へもよらざる蠹書棚の一隅に地を占むるもなか〳〵困難なるべし唯著作者自ら著作の快味を感じ往時を回想するに過ぎざるのみ、カーライル曰く「勞ありてこそ安樂も休息すもあり勞力なくんば安樂もなし」と實に著作の勞力と其安樂は著作者自らを知るか、よし他人の書齋を餌らずとも自己の書齋を飾る方々なりグラットストーン曰く「書齋は主人の人格を代表するものなり室內の裝飾として書齋は最も貴重なものなり」と多くの舊齋中邦家に至大の關係を有する林業書の裝飾なきは宛かも山に木無きが如し書冊は文明の表徵なりとせば書冊を構成する紙の資料は竹木に在り文明の分子紙に在れば其資料たる竹木の養成保護に思を寄するが肝要とせん紙の費消者にして山林を尊重せざるものは米の消費者にして稻田を尊重せざるものに類せんか

回想す余の健康は林業の賜也林業教育の御蔭なり生來の虛弱到底進學の望みの綱も切れ命あつての物種と他人に笑はれながら苦しい高等學校時代の適齡に於て徵兵檢査に丙種不合格を仰付かつた一人が當學窓に親み運は天に在り命之從ふと勇氣も出したが當時の恩人は父に談じて余を林學に志しめた之が命捨ひの親と云ふもの苦い時代も瘠せ我慢で通り越し駒場の三年の間に身体愈健康に復し重量增加すること數量三年目に卒業して始めて歸宅せる際は我弟は玄關で他人扱をしたと云ふ滑稽を演じた事もあり全く林學の實習かの日蓮上人で名高き清澄山の濱習と駒場の庭は身神の修養鍛錬には好適地なりき爾來林學に親み林學に從事して益々健康敢て入後に立たざりしは之れ全く山林の恩惠なり實に我を生めるものは母なり我が生命を續けしむるものは山林なり

斯くて十有五年の今日迄山林趣味深きを感ずシエクピア曰く「心樂しければ行路の難きを覺ゆず」とジョンソン曰く「當然の苦痛は不平を鳴らさずして之を忍べ」と眞に我職務に對する警句紳言なり將時に炎暑の候遙に過去を回想し報恩の念禁ずる能はず國家の安泰と師友の清健を祈る。茲に現境を歌ふて慰安の資とし幸に御笑讀を煩はす多罪、萬謝。

「駒場を出でゝ十五年、蝦夷が島根の山深く、愛奴の仲間先に立ち、ロープを引くや五千間、ナラやイタヤにクルッペー、空つくトドに測量器、野宿天幕の高枕、熊の囓鳥の聲、家庭の趣味を外にして、半歳暮すも國の爲、百年の計吾腕と、ダニ攻め蚊攻め水攻めを、物ともせずに根曲の竹を潛りて峯迄と、登る勇氣の雄々しさよ、振へ〳〵よ施業案、荒波打てる北海の、山は御國の鎭めなり、苦むす弧の水上に、森は女神の住家なり。」

「親愛なる岐蘇林友紙上を通じ吾生生の思出感想を記し卒業の疎遠を謝す蘇門出身者卒業後の消息も亦紙上を飾り師弟並に學友の情誼を溫めん事を切望す

故內藤先生を悼む

大正九年六月二十一日噫此日は如何なる凶日ぞ慧明と慈仁を以て遍く知られたる我が支局長內藤善助先生は忽然として此世を去りぬ、先生は人も知る如く母校に永く教授囑託として豊富なる學識と適切なる講義を患與して我が校教學上至大なる努力傾注せられし恩師なり

先生の非凡なる其高邁なる識見と崇大なる人格にして一度接し知を交へし誰か景慕心服の念措く能はざるものなからむ思ふに先生が學窓を出でて帝室林野管理局に就任せられしより沒前木曾支局長の要職に至る十余年の久しき間孜々汲々として木曾御料林野の開發事業の管理經營に勉勵奮勵せられし成果は實に未開不便地域極めて利用難渋なる此大森林地をして今日茲に本邦屈指の代表的林業經營地として嘖々たる名聲を語るに至らしめたるものにして又先生の貴き體驅より迸り出づる心血は惜しまず注ぎて

遂に先生蘇境の地にありて畢生の悲運に到達せしむるに至れりと云ふ可きか

凡そ人は頭師に起ちて善くし難きものは才智に富めや慈仁の念乏しき爲の致す處なりと古人は云へり、眞や先生の温良慈愛の情深き内部局諸官を愛撫し外地方町村民人に厚禮興篤なるら人の善く知る處なり、加ふるに近時思潮人心の變動は官民相互の融和を缺損し動もすれば離隔反目の傾向あらんとする時其對外諸事務の愈々至難なる裡にありて而かも圓滑自在に統管せし如き固より先生の手腕力量の然らしむる處なる可しと雖も又無邊の慈心德望の非凡なるに俟て始めて豫げられしなりと稱すべし

沒時急報傳はるや部下知己諸人皆痛惜悲嘆の情已み難く憮然として慟哭せり、嗚先生既に世に亡しされど先生が余德潤動は尙嚇々として後日の龜鑑となり偉靈雄魂吾人の腦裏に徹して一日も去る能はざらしむ

余は先生の死去を追悼するの感切にして思はず林友紙上に揭するの己むなきに至れり希くは諸賢諒とせらよ

大正九年七月五日　　峽龍生

○自覺

山村愛

◎黎明――靜かに擇を離れて冷水に身を淨め表のグラウドに出て見よ

未だ察舍には微かな寢息が漏れてゐる時分薔薇色の東雲の空には筆にも言葉にも盡せざる神々しくも亦畏嚴なる神祕が漂つてゐるのを見るであらう

僕は此時滿身感謝の念が充實して思はず噫有り難き此身よと肉体を打ち震はせるのである、そうして此報恩が吾等終世の大義務なるを覺ゆるとき燦然たる光明が遙かに輝くを認め我が血潮は鳴りそして吾が努力の足らざるを自覺せずには居られない

◎一体今迄の僕の生活は不徹底極まるものであつた僕は僕よいふものが唯肉体的にのみ存してゐる樣に思はれてならなかつた唯食ふことばかり、寢ることばかりを考へてそしてもつと呑氣に樂に暮して見たいと思ふてゐた、朝起きるそれも点檢の鐘の音に驚かされて飛び起き布團も寢衣もサッと日棚に丸め込んでおわて、廊下に駈け出るのが常であつた、その癖あの食時の時の濁つた樣な鈴の音は妙に氣に入つたものだ登校しても始業の鐘よりも終の鐘が待ち遠しい、先生の講義を聞いてゐるのは恰も水の流れを見てゐると同樣清淨な水の底に磨かれた金塊が輝いてゐるのを水が冷たい爲に手を出して迄之を取りたいとも思はなかつた、放課後になつても一つの運動もせない勉强は勿論出來ない莫大な時間が唯水の樣に流れて行くのを見てその貴重な時間を把捉し得ないのが僕の缺点だ

安閑として夜を迎へる自習時間中も自習終の鐘の音のみに注意を配つてゐる、のみならずたまには内證でソット御先へ御免を蒙ることもあつた

何といふ無意味な生活だつたらう、これでは全く禽獸に等しい生活ではあるまいか

「在學中に勉强して置かなければ駄目だ」とは耳にタコの出來る程先輩からも聞かされ自分でも必要であるといふことは萬々知り乍ら突進し苦勞して迄研究仕樣とは思はない、この思想が入學當時に較べると驚くべき勢で全身に瀰漫しつゝあるのを知る、授業中でもさうだ若し錄習したことを復習したことを發表せねばならぬ樣になると一時間中小さくなつて俯向いてゐたり「出來ません」「忘れました」と惡いことでもした樣に――小聲――で言つて通る若し發表せねばならぬ時が來たならば「知りません」「忘れました」と言はうといふ怠慢な考が產む言葉であつて然も不徹底から不徹底へ葬る淵源である僕の生活は少くとも現在迄は退嬰主義ではなかつたか進步主義といふ積極的の生活をすることが出來ないで人後に人後とあせる退嬰主義であつたに違ひない努力も現狀を繼持するだけの努力に不足を生じ次第〳〵に後から後からと急ぐ、何と云ふ憐れな僕の生活であらう、一つとして採るべき点のない僕は全く敗北者たるを免れないのだ運動に於て一の活動を表はしたるにあらず學藝に於て何の長所も持たぬ、唯小感情の爲に動搖する男は實際敗北者たるを免れないのは當然か

◎徹底した自覺に入る前には充分なる睡眠が必要だ「僕の從來の生活はその睡眠時代

でなかつたではあるまいか」「チナことをいふを負け惜しみの强い奴と笑ふであらうが便宜上? こうどでも思つて尙一層絕大の努力を要求して尠くも人並には活動して見たいと思つてゐる。（大九、七、五）

文苑

杭原の夏

槇尾主人

○巢たちにし雀は親のあとを追ふ羽毛ふるはして狂ほしまでに。

○さら〳〵と若葉は絕えず風に鳴り熟れし杏は紅に茜に。

○針の先鮎のかゝりてびり〳〵と糸に竿に手に傳ふ心に。

○寂しさはあとづれ來つる何處より形もあらぬ影をおとして。

○爽やかに夏の日涼し茶釜鳴る澄みし音には謹み覺ゆ。

○門を過ぐ人の語りも寂しさのわが魂の奥の奥より。

○若葉もれそゞろありきを三日月は二人の蔭を淡く作れり。

○氣も空もうつし心も鶉なく腦みをそゝる野邊にしあれば。

○初夏は懷し懋し惱しき心に充ちて草原に伏す。

○螢とぶ青葉の山を窓にして雨を思へば河鹿しばなく。

○晝顏の咲き初めし花たはむまで降りの注ぎてしと〳〵露の。

○五月雨に煙をはきしひな芥子の朝さびしく花の散る散る。

○なやましき心の奥の奥までも梅雨の濕りのつゆ〳〵泌みぬ。

○朝の霧霽れて映へゆく駒が根に鳥の目程の雲の休める。

○我點し人侮りぬさゞぬきや教員室の角の角より。

○日ぐらしのなく音に空の紅み出で雨後の山山黑み行くなり。

○夕立の恐ろし雲の形して西へ西へと雨足の立つ。

此數首を前の長野縣木曾山林學校助手山下不二三君に呈す。

奮起

三年生

木々の綠もいやまさり杜鵑一聲、あはれはかなくれどづれぬ。

世人平和の綠酒、醉ひどづれぬ。

樹蔭涼風夢迚る。　醉ひの心地に、

時は皐月の廿五日、石田領事を宗となし吾はらからあはれ五百人、ニュウスクの朝の露、聞けば涙數行、讀めば滂沱たり。

悽慘悲し、國の譽と我子まで、われと我、及に伏せしあはれさよ。

丈夫の血潮燃え立てり、吾等の憤怒天上せり。

恨は長しバルチザン。

如何なりけんヒューマニテー。

嗚呼日の本同胞の、

恨の靈は今何處。

アムルー河の厚氷、

よしやとくとも解けやらぬ、

怨は深しバイカル湖、くむとも盡きぬ如くなり。

醉ひるものとく醒めよ。夢見る人もとく〳〵覺めよ。

清きオロラの其の下に、

友のうらみは消えさるぞ。

日記帳より

島の里人

○みづみづし木々の若葉に旭影あら新らしく小ゆるぎのして。

○櫻花都大路をよそひせる春の夕を歌澤開くも。

○足るに似て足らぬが恒の世の中をみすぎに足りて心忙しく。

○雨に濡れ風にもまれてホプラアのわはれわが身に消たる嬉しさ。

○深みゆく木々の綠に涼しくも心ありげに交歡の花さく。

○千曲川太方風すごきあと絕えて瀨の音遠く震ひ麥畑。

○栗の花落ちて寂しき山路を笠傾けつ馬子の群行く。

○鳥の來て櫻の實をば食みさはぐかろき惱みに夕映のして。

○若草の芽ぐむはひをなつかしみ鉢に移してしげしげと見る。

○寂しかる宿直の宿にくさひはり我をとりまき茶桂虫なく。

○小刻みの左右につゞをれぬ千鳥が心語る沙濱。

○おもしろの拍子調子に上りくる魚の鰺の甘し好もし。

○人の世の旅も想る心地しぬ吾ひとり行く霧のなかゆく

○照る月もかげろひゆけり大空の一むら渡る風を見せつゝ。

○近江路の問ふ人もなく暮行けり湖には波の音ばかりして。

○勢多の橋とゞろに渡る駒たゞて家路を急ぐ海士の群過ぐ。

○青によし心も奈良のみ佛を幼き頃は繪には見つれど。

○夏ながらまだ消えやらで苔人の足あとしるき雪の白馬（白馬山に登りて）

○友戀し窓戀し籠の日白の聲かなし夕日の紅く壁を照せば。

（通信）

七宮先校長の芳筆

謹啓 酷暑之候に相成候處各々益御健祥の段大賀の至に御座候陳者小生御校在職中は徒らに榮職を瀆し候のみにて何等貢献する處なく校運の發展を阻害致し候罪決して輕からざる義と常に表心慚愧の念禁ずる能はざるもの有之候然るに過般來辱くも謝恩金募集の御計劃或彼下御高配によて前號御報告の通り過日御金員御送附に接し身に餘る光榮となし誠に難有拜受仕候、此上は相當記念品を購求の上永く各位の御厚志を感銘致す所存に有之候先は不取敢御厚礼申上候

追簡末にて恐縮の存りには候へ共各位の御健康を祝し一層御奮勵あらんことを祈上候

大正九年七月八日 七宮純雄

木曾山林學校校友會御中

會員動靜

○上條芳郎君 長野縣廳林務課に轉任

○長谷部貞一君 退職せられ更級郡青木島村字丹波島に居住せらる

○今井鈴君 樺太工業株式會社山林部に轉職

○北村竹次郎君 靜岡縣賀茂郡上河津村帝林局河津出張所へ轉勤せらる

○勅使河原角藏君 三重縣帝林局度會出張所に轉任

○大久保五成君 滿州無順炭鑛殖產課に轉任

○矢島穣君 岐阜縣大野郡山ノ口村保議區に轉任

○森次澤君 岐阜縣高山小株區署に轉任

○山下不二三君 朝鮮京畿道漢川郡に轉任

○米山芳郎君 滿鐵鐵嶺地方事務所に轉任

（林勘光君 樺太工業株式會社眞岡工場山林部に轉職

○等々力官一君 北安曇郡大町九日町入山旅館居住

○小池茂樹君 豊橋歩兵第六十聯隊第十中隊に一年志願兵として入營

會員死亡

○第八回 西尾長一君死去愁傷の至なり

○第十六回 山本茂君死亡哀悼に堪へず

第十七回卒業生就任職

○中一君 靜岡縣周智郡氣多村帝林局出張所に就任

岐阜縣益田郡小坂帝林出張所に就任

○椙山節男君 靜岡縣廳林務課に就任

○紺田孝二君 東京神田表神保町一〇光風館に居住せらる

○中越三郎君 岐阜縣吉城郡上宮村居住

○有井利雄君 岐阜縣吉城郡上居住

○福島町川上居住

○塩谷太君

○瀧美雄君

○西村清志君 玉瀧村居住

○北海道釧路町字茂尻矢富士製紙會社孰路山林派出所に就職

○立道乙次郎君 靜岡縣林務課に就任

○鈴木正雄君 下伊那郡平岡村滿島居住

○吉田良吉君 埼玉縣秩父町秩父小休區署に就任

○矢野佑君 愛媛縣久万小林區署に就任

○吉村幸助君 宮城縣石卷町石卷小林區署に就任

○星重男君 岐阜縣大野郡高山町帝林局出張所へ

○原革雄君 上松出張所黑澤伐木所に就職

○吉田武君 群馬縣沼田町沼田小林區署に就職

○深澤佐君 山梨縣廳林務課に就任

□御寄宿舍□

此外御寄宿舍に接せし諸君多數有之候得共記事輻輳に付遺憾ながら次號に讓り申候

林友代領收

金貳圓 金壹圓五拾錢 金壹圓

寄宿舍より

前略前号中林友にも有之候通り今年は本校創立二十年に相當いたし居り候間我が寄宿舍にて記念といたし優秀なる寮歌を求め度き候へば續々四方諸君の投稿を仰ぎ度く且宮奉懇願候〆切は九月十五日迄委逸なる一を以て學歌といたし林友紙上に掲載す可く候間左樣御承知被下度候

宛名は麹町部宛にて御發送相成度願上候

上下次郎君 加藤源一郎君 原英雄君